

## 20240718(木)第1回萩市産業戦略本部会議録

### 報告 インバウンド施策「外国人観光客アンケート調査」について

#### 1 「外国人観光客アンケート調査」結果に対する委員意見

- 思ったよりアンケートの結果が良いが、回答数が少ないので鵜呑みにはできないと思う。後は、戦略を練ること。
- ヨーロッパの方は、長期で日本に滞在する。ヨーロッパの方と話をすると、どこがいいのって話になる。旅行のプランをあまり決めずに来ている。台湾など日本から近いところは、短期間で来るので、旅行サイトを使うっていうのが、この結果から見えた。国ごとによって、ターゲットを絞って動くことが必要。
- アンケートを取るときに、中国語も必要なんじゃないか。学校では習ったけど話せない日本と同じような人が中国の方にも多い。その辺りを考慮されたら、もうちょっといい情報がある。
- 萩を知ったきっかけ、来るきっかけというところで、考察の上位に上がっている所をもっと増やしていくっていうのも1つあると思うが、下位になってる要因、あまり回答がなかったところにもポイントがある。そのアピールが足りなくて、もっと萩が知ってもらえてないという考え方もある。例えば、食べ物が高いのであれば、食べ物をもっとアピールすれば、萩を知るきっかけになるとか、来るきっかけになるとか、そういった考え方もある。

### 報告 ふるさと納税の新たな取組について

#### 1 現地決済型ふるさと納税の導入に対する委員意見

- 周知が必要。萩に来て、宿泊施設等の窓口で寄附をして、返礼品としてその宿泊施設等で利用できるクーポンを提供する、こういうことを開始しているというポスターは、いろんなところに貼る方がよい。
- 返礼品を提供する事業者が正しくそのクーポンを運用できるかという部分がポイントになる。せっかく寄附したのに、そのクーポンを使えば少ないだとか、使えないとなると、その意味がなくなってくる。
- 返礼品を提供する事業者が、このために決済の仕組みを新たに導入するのは負担になる。その辺りの検討が必要。

## 意見交換テーマ

### 「萩探究部と地域社会の連携～市内高等学校の魅力化に向けて～」

#### ■意見交換の内容 「課題を解決する方法について」

#### 課題①萩探究部に参加する高校生を増やすには、どうしたらいいか。

- 萩探究部の取組みは非常に興味深い。とは言え、現代の高校生にとって魅力的かと問われると疑問も生じる。高校生になると、部活に受験勉強(進学塾通い)にと、自由時間が減ることが一番の要因。例えば、高等学校の部活にすること。部活にして取り組むことができれば、自由時間も減りません。
- 萩探究部の取組みが、保護者の望み「進学・就職活動」に貢献することにつながる。
- 高校生は承認欲求、自分たちが取り組んだことが何になるのかというところに興味を持っていると思う。せっかくやったのに、やっただけで終わったとか、自分だけで終わったというのは、あまり達成感が生じない。探究の内容にもよるが、自分たちが探究したことが実際の政策に活かされる等、達成感を感じられる仕組みであれば、興味を持ってもらえる。
- 大人、高校生それぞれが考えることは、昨今、ギャップが大きくなっている。高校生が何故興味を持ってくれないのかアンケートを取るのも一つの手段。
- 萩探究部をサポートするすずかんゼミ大学生に大学や関係団体を案内してもらえるなどの特典をつけてはどうか。高校生は萩以外で経験したことで、萩のことを新たに考えてみるきっかけになる。
- 高等学校の探究とは差別化する。例えば補助制度を設けるとか。
- 探究したものが実際に活用される事が少ない様に思う。物作りや探究はその結果がハッキリと分かると楽しくなる。もう少し地域と一緒にやった探究だったり、高校生が月1回の活動の時以外でも楽しみながら出来る様にあげる。資金も含めて。
- 大人と若い人との考えには、かなりギャップがある。大人が幾ら考えても高校生に刺さるものは出てこない。高校生に、どういうことが知りたいか、何に興味があるか、どういうことを求めているのか、アンケート等で実際聞いてみて、それを活動の主軸に置いていく。
- 興味がある方は参加してくださいというような募集方法などところがあるので、もう少し広く参加できる日時設定とか必要。平日高校の休み時間、昼休みでも放課後でも少しオンラインしたり、そういう幅広い手段が必要。
- 高校生は、まだ興味があることすらわからないという状況もある。興味を持てるような選択肢、テーマをどんどん提示することが、逆に興味を引きつける。
- 結果が見えることをしないとなかなか興味がわかない。また、その結果をもとにPDCAを回すような動きを続けていくことによって、失敗から成功を得て楽しくなると思う。その辺が出せるようなことを、探究しなきゃいけない。

- 高校生を採用して、教育するという立場から言うと、探究心というのはすでに高校生は持っている。その探究心というのが昔と違い、SNSだとか、ITを使ってるので、探究するものに関してとことん探究できる。なので、自分が興味を持ったものに関しては、どんどん調べるっていう形で、探究している。
- 社会に関わってる方達と、うまく関わるきっかけを作ってあげることが必要。
- 楽しいと思うということが非常に重要。親、社会人、年をとった人間こそ、若い子たちに、楽しいと思わせること、そういった場を作る、提供することが重要。

課題②探究授業は、試験期間などを考慮し、毎月1回、日曜日の午後か

ら実施しているが、参加率が5～6割程度と低い。参加率を上げるには、

どうしたらいいか。

- 実施日の検証。
- せっかくの休み。時間を作る、どう使えるのかっていうのはあるが、平日にすれば、もっと活動はしやすくなる。

課題③萩探究部に参加した高校生には、大学で市外に出たとしても、

将来、萩に戻って仕事をしたいと話す高校生がいる。しかしながら、日

頃は、学校と自宅との往復ばかりで、「萩の社会を知る機会が少ない。」

「萩に戻ってできる仕事がない。」という意見がある。高校生が

地域社会を知る機会を増やすには、どうしたらいいだろうか。

- この課題③と次の課題④をテーマとして探究してみてもどうか。大人の意見では難しいテーマ。参加してる高校生が、萩探究部の中で考えたら面白い。
- 高校生との関わりに、インターンシップがある。地域社会との連携は、学校側も大切と思ってられる。学校と協力していくことが重要。

課題④萩探究部に参加した高校生の感想に「大人と一緒にイベントを  
考えたりするときに、大人に「それいいね。」と認められた瞬間が楽しか  
った。」「色んな人たちと関わることで萩の魅力に気づいた。」という意  
見がある。もっと多くの関係者と連携して探究をすすめるには、どうし  
たらいいだろうか。

- 他のアンケートでは、高校生は時間がない、お金がないことが分かる。就業体験等含めて、いろいろ体験する機会を設けられるようにしていくことが必要。
- 農業など担い手が少なくなっている。例えば、農家の息子さんが親の仕事のデータとりをしてみる。データ化していくとことを探究してみるとか。そうすることによって今後の機械化、農業自体がアナログではない形に変わる等の動きにつながると思う。高校生が農業であれば、そういったことをやってみると面白いと思ってもらえる仕掛け方とか、萩の将来につなげるような探究として面白く見せていく方法もある。

## その他

- 萩市という前提で動いてる。幅広く探究テーマが決まっても良い。「AIを活用した観光案内」「観光ホテルのオペレーション効率化」「VR観光」等々、萩市と結びつくテーマは無制限。テーマの頭に「萩市の・・・」は視野を狭める。「世界で活躍する人材育成！」ってくらい広い視点が必要。
- 萩市の将来が明るいことを高校生に示すことが必要ではないか。若者がなかなか萩に残らないというような話も聞くことが多くなってる。萩の魅力、萩の将来性を高校生、子供たちに示していくことが必要。
- 萩に興味を持ってもらう。自分が住んでるところに興味を持ってもらうことが大事。
- 都市部の高校生たちと比べると、萩の高校生は体験する機会が非常に少ない。知識的なものはネットがあるが、高校生という一番多感な時期に、いろんなことが多々体験できる仕組みは今後必要。そうした中でこの萩探究部については非常にいい取組み。
- 就職活動では、学生のときにどういうことをしましたかと聞かれる。何に興味を持って、行動していたかは大事。萩探究部ではそういった取組みが出来ていてすごくいい。